



TITLE:

舎密局・三高資料について

AUTHOR(S):

上横手, 雅敬

CITATION:

上横手, 雅敬. 舎密局・三高資料について. 静脩 1988, 24(4): 5-7

ISSUE DATE:

1988-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36998>

RIGHT:

せい み きょく 舎密局・三高資料について

教養部教授 上 横 手 雅 敬

1

明治2（1869）年大阪に開設された舎密局に起源を持つ第三高等学校は、昭和24（1949）年京都大学に合併され、翌25年、その歴史を閉じた。この間80年にわたる資料は、「舎密局・三高資料」と総称され、現在京都大学教養部図書館に保管されている。以下、この資料の価値について、私見を申し述べたい。

まず日本教育史において、舎密局～三高が持つ特殊性に注目しなければならない。明治19年の中学校令によって、第一～第五の5つの高等中学校が設置され、文部大臣直轄となった。これが旧制高校の源流であり、三高の歴史も直接にはここに始まるといえる。明治25～26年ごろ、三高で創立記念日の論議が行われたとき、明治19年4月29日の高等中学校令をその創立とすべきだという意見も確かにあった。しかし三高は結局この見解を採らず、明治2年5月1日の大阪舎密局の開局を以て創立とし、他の諸高校とは異なる立場を示した。その結果、舎密局以来の十余年は、三高の前史に編入された。それは舎密局にはじまり、洋学校・理学校・大阪開成所・第四大学区（のち第三大学区）第一番中学・第三大学区開明学校・大阪外国語学校・大阪英語学校・大阪専門学校・大阪中学校・大学分校・そして第三高等中学校と、頻繁な校名の変更、それに伴う学校の性格の微妙な変化をもって特徴づけられる。このような複雑な前史は、高校の中でも三高のみが持っているものなのである。

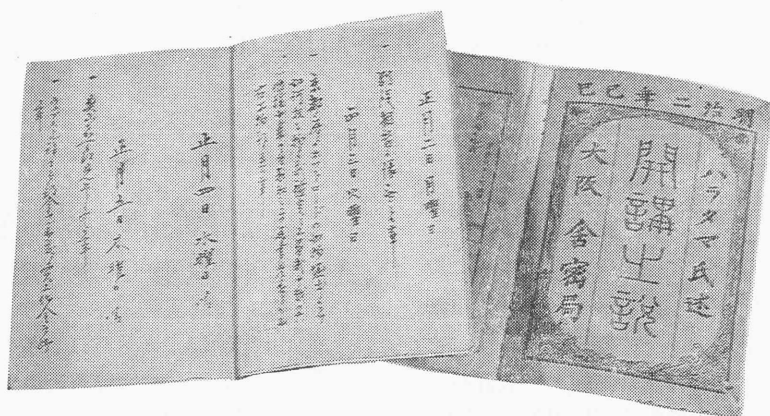
東京大学が明治10年に成立したのに対し、京大の創立は20年も遅れた。この間、東京と並ぶ文化の中心である京阪に、どのような高等教育機関を置くかについて、政府の方針は動揺を続けた。これが頻繁な校名変更の原因である。夙に大学と予備門とが分化していた東京と、大学の創設が当面

のスケジュールには上りがたい諸地域との中間にあった京阪の位置が、三高にこの複雑な前史をもたらししたのである。

京大は明治30年6月18日の勅令第209号をその創立としている。舎密局以来の歴史は三高に継承され、京大の前史とはならなかった。これは京大の成立の仕方に原因がある。東大に次ぐ第二の大学の創設については、三高を大学にするか、三高と別に大学を作るかの2つの方途があった。前者の方法も熱心に検討されていたのであり、明治27年、高等中学校が高等学校に改められた際、諸高校と違って三高だけには大学予科を置かず、法・医・工学部を置いたのも、そのあらわれである。結果的には大学は三高とは別に新設され、京大は専門学術教育、三高は大学進学の前備教育・高等普通教育を担当することになり、舎密局以来の歴史は三高が受け継いだが、それ以前の三高は、専門教育と普通教育とを未分化の中に兼担していたのである。

もと大阪にあった三高が、明治22年、京都に移転した意義は大きい。これは京都府の熱心な誘致運動の成果であるが、その結果、京都は関西における学術の中心となり、さらに世界的な学都となる基礎を築くことができた。また三高が京都にあったことを前提として、8年後に第二の大学が京都に生まれたのであり、さもなくばそれは他の地に設けられた可能性が強い。本学が京都にあることは、本学独自の学風の形成に大きな影響を及ぼしている。種々の面から見て、三高の京都移転には注意を払わねばならない。

舎密局・三高資料は量的にいても諸高校中で出色である。しかしより重要なのは資料の質の問題である。京大が成立する明治30年以前、とくに、中学校令が公布される明治19年以前において、三高が占めていた教育史上のユニークな地位から見



左：理学所日誌
(明治4年)

右：舍密局開講之説
(ハラタマ述)

ても、研究上の価値は高いと思われる。

2

舍密局の施設が極めて充実したものであり、実験を重視する高度の理化学教育が行われていたことは、科学史家の関心をひき、同局およびその教頭であったオランダ人ハラタマについては研究も進められており、その面での舍密局・三高資料の価値はすでに認識されているといってよい。しかし専門学術教育とならび、高等普通教育が舍密局～三高の今1つの柱である以上、舍密局に僅か4ヶ月遅れ、明治2年9月22日に開校された洋学校、その開設に努め督務(校長)となった何礼之のことを忘れることはできない。明治3年、舍密局改め理学校と洋学校とが合併して大阪開成所となり、以下前述の歴史を歩むことになったのである。

何は長崎通詞の出で、のち岩倉具視の遣欧使節団に随行し、明治8年、「万法精理」の名の下にモンテスキューの「法の精神」(英訳による)をはじめ邦訳し、翌年ベンサム「民法論綱」を翻訳しているほか、訳著が多い。従来ほとんど注意されていないが、法律学をはじめ、西洋社会科学の先駆的な紹介者として、もっと脚光を浴びて然るべき人物である。

カリキュラムの点では、大阪中学校時代までは、使用教科書が明示されていて便利である。よく使用されたバルリー万国史、ウェーランド経済書は、それぞれ Peter Parley's Universal history, on

the basis of geography と F. Wayland, The elements of political economy だと思われる。明治5年、何礼之は後者を翻訳し「世渡の杖(経済便蒙)」を刊行したが、実に早期の紹介である。他にスミット英国史、クワッケンボス亜国史、チェンバー氏経済書などが著名であるが、調査によってさらに珍しい書物が出てくるかもしれない。慶応3(1867)年福沢諭吉がアメリカで購入して来たという教科書に通ずるものが多く、洋学といっても、言語はほとんど英語で、イギリスよりもアメリカの影響が強い。大阪中学校時代になると、セクスピアリオン・リードル、イングリシ・リテラチュールなど文学的な教材も用いられるようになる。

教官・学生に人材が輩出したことはいうまでもないが、従来は星亨・高橋是清に限られた人物しか注目されていない。しかし今後の調査で、未知の事実が明らかにされる可能性は残っている。大阪英語学校の外国人教師には、ゼーンズ(Jeans L. L. Janes)やサンマルス(Samuels J. Summers)がいるが、前者は熊本洋学校で海老名弾正・徳富蘇峰らに感化を与え、日本におけるプロテスタンティズムの基礎を築いたアメリカ人であり、一旦帰米後再度来日し、第三高等中学校でも教えた。また後者は日本でシェイクスピアをはじめ講じたイギリスの語学者である。

ここでとり上げた問題は、私には専門外のこと

で、不十分な点が多いが、舎密局・三高資料が明治時代の文化・思想・教育を研究する上で、注目すべき材料を含んでいることだけは理解いただけると思う。

舎密局・三高資料は多くは事務書類であるが、内容は多岐にわたっている。その一端を知っていただくため、昨年11月16日から12月4日まで、教養部図書館で開催された「舎密局から三高へ」展の目録の中から、紙数の制約上、舎密局・理学校に関するものだけを掲げておく。

〔書類〕ハラタマ氏サイン（月給の請取書）
・諸役人以下月給渡方帳・職員符

〔錦絵〕御城外大調練之図（長谷川小信画）

〔写真〕舎密局建物・舎密局開校記念写真・ハラタマ・田中芳男・三崎嘯輔・平田助左衛門

〔書籍〕舎密局開講之説（ハラタマ講説，三崎嘯輔訳，保田東潜校訂）理化新説（ハラタマ述）英蘭会話訳語（ハラタマ口述）英吉利会話篇（ハラタマ関）

Chemical Abstracts, 11th Collective Index について

工学部助教授 石油化学教室 竹 内 賢 一

Chemical Abstracts（以下 CA と略す）は、アメリカ化学会の CAS（Chemical Abstracts Service）から発行される化学文献抄録誌である。1907年に創刊され、現在英語で発行されている唯一の抄録誌であって、世界各国の約14,000の化学系雑誌、約30ヶ国の特許、会議録、図書、学位論文が収録されている。内容は80の分野に細分化されている。CA の意義は、個々の雑誌に目を通すことなく最近の論文の内容を把握できることと、過去に発表された研究の貯蔵庫としての利用である。特に後者の意義が高く、それは優れた索引が完備しているためである。索引には Weekly Issue Index（各号索引）、Volume Index（各巻索引）、さらに5年分（1956年以前は10年分）をまとめた Collective Index（累積索引）があるが、このうち Collective Index による検索が最も便利である。最近1982年～1986年分をまとめた 11th Collective Index が完了したのを機会に、その利用法を簡単に解説する。

索引は、General Subject Index（一般事項）、Chemical Substance Index（化学物質）、Author Index（著者名）、Formula Index（分子式）、

Patent Index（特許）で構成されている（ただし、1971年以前は、Chemical Substance Index は Subject Index に含まれている）。表1に、1st～11th Collective Index に収められている年代と索引の種類を示す。表1の索引以外に、8th Collective Index 以後、検索を能率よく行うための資料として、Index Guide（索引案内）と Index of Ring Systems（環構造の索引）が発行されている。ここでは紙面の関係で、検索上の注意点を述べるに留め、詳しい使い方はそれぞれの Index を参照されたい。

先にふれたように、1971年以前は化学物質索引は Subject Index に統合されているが、1945年以前については網羅性に欠ける。従って、その場合には各巻の Formula Index と Subject Index の併用を勧める。化合物名は概ね IUPAC 命名法に従っているが、1971年以前には慣用名も使われているので注意が必要である。この点を確認するには Index Guide を調べればよい。Index Guide を調べることにより、Subject Index を検索する際の的確なキーワードや、化合物の構造式と名称を正確に知ることができる。特に有機化合